

スクールソーシャルワーカーの仕事③ みおちゃんとの面接

みおちゃんは、私がスクールソーシャルワーカー(以後 SSW と表現)として、初めて関わった女の子である。出会ったのは小学校4年生の1学期。3年生の3月から登校できなくなり、4年生になってからは1日も登校していなかった。学校からの支援依頼は「不登校への対応。不登校の解消に向けて学校として今後の対応をどうしていけばよいか」という相談主訴だった。

SSW として初めて担当するケース。不登校のこどもとは、職場のフリースクールで関わってはいたが、「不登校の解消」に向けての支援経験はなかった。「解消」という依頼に、正直こたえられるだろうかと不安があった。とにかく、まずは情報収集からと学校訪問し、これまでの支援経過をお聞きした。そのうえで、最初はお母さんと面接を実施し、状況のアセスメントに取り組んだ。そしてお母さんの思いを元に、ケース会議を開いて先生方とアクションプランを検討した。

迷いが多くあった。なかでも一番の迷いは、本人のみおちゃんと会っていないままのアクションプランを作成したこと、みおちゃんの声을聴いていないことだった。担任の先生が週2回、家庭訪問を実施していたが、本人とは会えていなかった。SSW がみおちゃんと会うことをお母さんに提案したが、「今は、ちょっと・・・」「みおとは・・・会うのは控えてほしい。あとから荒れるかもしれないし。」と同意が得られない。クライアント本人と面接できないまま、ソーシャルワーク支援をすすめていけるのだろうか。クライアントは誰なのか？お母さん？みおちゃん？学校の先生？そんな迷いも生じて、なんとか主演のみおちゃんに会いたい、面接をしたいとモヤモヤする日々だった。みおちゃんがどんな思いを抱いているのかを本人から聴きたい。直接声を聴くにはどうしたらよいのか。その一方でソーシャルワーカーとしての経験はあるものの、子どもとの面接はほとんど経験なく、面接スキルもないと認識していた。

お母さんは、本人の思いを尊重し、「みおが話したいと言ったら、高名さんに会ってもらいたい」と伝えてくれていた。あせらず、その機会をひたすら待つしかなかった。

依頼から5ヶ月、そのときがやってきた。お母さんとの面接で「最近、怖い夢を観るから寝るのが怖い」とみおちゃんが話していることを聞いた。その数日

後、「その怖さを誰かに聴いてもらいたいと娘が言っている、高名さんのことを話したら、高名さんに聴いてもらいたいと言ってます」とお母さんから連絡があった。そしてみおちゃんと会うことになった。

念願の本人との面接、私の緊張は半端ない。しかしみおちゃんもまた緊張していた。その時の場面。

12月だというのに、素足にサンダル、ロングTシャツのようなワンピースに黒いカーデガンをはおっている。薄着。面談室で母と並んで座る。終始うつむいているが、ときおり顔はあげてくれる。お母さんは、みおちゃんの背中をさすったり、腰に手を回したりしてスキンシップをはかりながら、代弁したり発言を促したりしている。

みお：緊張しすぎて、なんにもしゃべれないかもしれない。

と最初に口にしたが、母の促しでかなりたくさん自分の言葉で、状況を話してくれた。お母さんがみおちゃんの顔をみながら話してくれる。

母：怖い夢を見るのがいやで、寝るのが怖いんだよね。それをどうにかしたいと思っているんだよね。女の先生なら話せるというから。月曜日に高名さんのことを話ししたら、聴いてもらいたいって思ったんだよね。

みお：うん。(高名さんが)どんな人かわからなかったし。ほんとはこんなこと、ママにも話したくなかった。ばあばのうちにいくとき、パパがイライラしていて。「みおの荷物が多い」とか言い方が強くて。それが怖い。寝る前になるとそんなことを思い出して怖くなる。パパはイライラしやすい。でもイライラしてほしくない。みおはまだ10歳だから。一人暮らししてみたいと思ったりするけど、それはまだ無理だから。ばあばが「ママと二人ではあばのところにくれば？」って言ってくれたから。

母：私が入院中に、そんな話を娘とばあばとでしたみたいなんです。私は直接聴いたわけではないので・・・

みお：ママ以外の人と話したかった。ママがいない間、ママと話せなかったし。ばあばの家にいるときは、パパがいなくてばあばとたくさん話しができた。ママが帰ってきて(退院して)、ママがいなかったときのことを誰かにきいてもらいたかった。

初回面接はこんな展開だった。初めてみおちゃんの姿をみて、そして声を聴くことができた。相槌と促しで、ひたすらみおちゃんの話す言葉に耳を傾けた。

お母さんが急に入院することになって、父と二人で過ごしたり、母方祖母の家で過ごしたりしたあとのことだった。お母さんのいない生活をなんとか乗り越えたみおちゃん。話題は学校のことでなかったが、みおちゃんの世界を少しだ

けのぞくことができたように感じた。そしてここからみおちゃんとの関係が始まった。

面接後お母さんより以下のメールが届いた。

『昨日もありがとうございました。帰宅後から、前日までとは違い、パパとクリスマスプレゼントを調べて、お風呂も私とは入らず、パパとお風呂も入ったり。寝る前に不安を訴えることもなかったです。高名さんにじっくり話を聞いてもらって、安心できたからかなと。今朝、娘に聴いてみたら、やはり話を聞いてもらって寝るときに不安にならなかったし、怖い夢も大丈夫だったと話していたので、昨日高名さんとお会いできてよかったと思っています。』

『日曜日に娘が話していたのですが、「学校も勉強も嫌だし、学校で嫌なことも色々あって学校にいかなくなったけど、それでこんなふうになると思わなかった。学校に行ったほうが友達とも遊んだりできるし、よかった。でも、今は学校に行くのは無理。友達とかにどう思われているかもわからないから。怖い。」と泣きながら話していて、娘のずっと抱えている寂しさや辛さがわかりました。この寂しさや辛さがなくなるように、また少しずつ学校や友達とのつながりを作っていけたらと思っています。』

SSW との面接が、ほんの少しだがみおちゃんの不安解消につながったようで、ほっとした。お母さんは、みおちゃんが抱える課題（父との関係、学校や友達との関係）を受け止め、解決に向けて努力する姿勢を示してくれていることが伝わってきたメールだった。

自分の関わりが、みおちゃんにとって良い変化を生み出してくれたらと願っている。